

令和2年度農学部授業評価まとめ（前期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	20340201	アグリフードシステムと農学	237	154	65	3.95	オムニバス式の講義を遠隔授業で行いながら、10評価項目中、8つの評価項目で科目平均を上回り、総合評価の満足度でも4.2という高い評価を得ている。自由回答記述欄には、農業には様々な要素があることがわかって楽しかったなどの積極的評価も多かったが、遠隔授業が不慣れなため、技術的問題を指摘する意見もあった。	質問コーナーの設置や提出課題へのフィードバックを求める意見もあった。200人を超える学生の提出課題にフィードバックをするのは大変であるが、より双方向の授業になるように改善を行いたい。	
2	20340202	分子細胞生物学	236	162	68.6	3.69	230人程度の大人数の受講者で、リレー形式の授業であるため、オンライン授業のみでは対応が難しいところもあり、多くの改善希望意見があった。そのほとんどは、資料を事前に配布してほしいというものだったので、先生間で相談しどのように対応するか決める必要があったと思う。	ネット環境の問題・一方通行の授業になってしまう、などオンラインの問題をあげる学生が一部いたが、慣れながらどのように対応するべきかについては、今後の課題である。 小テストを増やして出席をなくしてほしいなど、採点方法の希望意見もあったため、試験方法や授業の進め方等は先生間で相談して統一し、事前のアナウンスをきっちりすることで、オンライン授業でも対面授業であっても差が出ないよう、少しでも有益な情報の提供を心がけて授業を行いたいと思う。	
3	20341302	作物学各論	33	18	54.5	4.46	総合的には、科目群平均を全ての項目で上回る結果となったので、準備等は大変であったが、初めてのリモート講義としては円滑に進められたように思う。	「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」が3.8と低かったことを受けて、特にリモートで実施する講義の場合は、学生に対してあまり教えずぎるのではなく、疑問が浮かぶようなトピックを数個、講義内で入れていくことが必要であると思う。	
4	20341303	園芸資源植物学	50	23	46	3.92	本授業では日本原産の園芸作物を中心に、品種の来歴、栽培方法、育種の経緯などについてパワーポイントによるスライド（音声付）とプリントを併用してオンラインでのオンデマンド方式（自習型）で講義を行った。今年度の学生の評価によると、ほとんどの項目で「5、強くそう思う」か「4、そう思う」と回答した学生が最も多く、特に、「シラバスの学習目標は明確だった」と「教員は授業に十分に準備して臨んでいた」という項目に対しては「5、強くそう思う」と回答した学生が最も多かったことから、授業の準備と実施に関しては問題はなかったと思われる。 しかしながら、「学生と教員とのやり取りには双方向性があった」という項目に対しては「3、どちらでもない」、「2、そう思わない」、「1、全く思わない」と回答した学生が多かったことから、オンライン講義での双方向性の確保の困難さを感じた。	授業の内容に関しては問題はないと思われたが、来年度以降もオンラインでの講義が行われる双方向性の確保をどのようにするか具体的な方策を検討したい。	特になし
5	20341304	天敵微生物学	53	25	47.2	4.21	アンケート回収率は47.2%と、全体の回収率（57.6%）を下回った。これは、すべてオンデマンド型の遠隔で実施したことも一因かと思われる。Moodleコース内のアナウンスでもアンケートへの回答を促したが、やはり対面で呼びかけるのには遠く及ばないようだ。 アンケートの10項目すべてが科目群平均値と同じか、またはそれ以上の値を示し、7項目で4.0以上であった。今回、オンデマンド型で、PowePointに音声説明を加えた動画資料とその配布資料を提供しながら実施したが、自由記述欄では、動画の長さも適切だった、説明が分かりやすかった、慣れないオンライン授業だったがストレスなく受けられた、などの感想ももらい、概ね良好な評価を得たと考えている。	PowePoint及びその配布資料は、十分に受講生の理解を助けるものになっていると思われる。引き続き、内容を適宜改訂しながら、受講生の興味や関心を引くような説明を心がけ、受講生の学習意欲向上にも繋がるよう努めたい。 一方、自由記述欄の意見として、動画を視聴できる時間を指定した（本来の授業時間に合わせた）ことに不満が挙げられた。この点は、次回も遠隔で実施する場合には改善したい。	特になし。
6	20341305	生物的防除学	45	23	51.1	3.65	本年度はコロナ対応ということで、e-learning形式を採用した。学習目標、難易度、説明の分かりやすさなどは平均的であったが、この形式を採用したせいか、学生の満足度を含め、かなり低い評価となった。	当初から予想はしていたが、e-learning形式は学生に不評のようである。これは当然のような気もする。次回からは最大限、対面式の講義を復活させるか、（コロナの情勢に応じては）少なくともオンライン形式の講義形式にし、学生との双方向性などを復活させたい。	

令和2年度農学部授業評価まとめ（前期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
7	20341306	園芸科学各論	36	21	58.3	3.50	アンケート回収率は58.3%であった。シラバスの学習目標の明確性（共-51）、授業の準備の程度（共-68）、および深い内容への学習意欲（共-221）は4程度であり、比較的良好な評価がなされていた。やりとりの双方向性（共-60）、説明のわかりやすさ（共-67）、および授業に対する熱意（共-81）は評価が低い項目であり、特に改善が必要である。	アンケートの回収率が向上するように、アンケートへの回答を学生にはたらしめかける。評価が低かった項目は、リモート形式への対応が十分でなかったことも要因と考えられる。今後改善するように留意しながら取り組んでいきたい。	
8	20341310	応用昆虫学	48	24	50	3.43	ほぼすべての項目において、担当講義の評価は科目群平均を下回っていた。とくに「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の評価は2.1であり、評価が低かった。今期は、新型コロナウイルスの影響でe-learningによる講義を行ったが、双方向性の欠如など授業方法の大幅な改善が必要と考えられる。	オンライン授業におけるe-learning方式では、十分な教育の満足度を与えられなかったことから、次回もし、オンライン授業で実施する場合には、双方向性オンライン授業を実施する。 感染対策が十分にとれるのであれば、従来通り、対面授業を実施する。	
9	20341311	植物育種学総論	34	19	55.9	3.29	共通項目： 概ね、平均点もしくは平均点を下回る評価結果であった。特筆すべき問題点は、「授業の難易度は適切であったか（学修デザイン）」と「教員の説明はわかりやすかったか（インストラクション）」の2項目で、いずれも2点台であった。 自由記述欄（指摘事項）： 自由記述欄は以下の通りで、まさに（1）授業内容が難解、かつ（2）説明が不良の二点が指摘されていた。そのほか、（3）授業管理上の問題（試験時間の確保等）と（4）遠隔授業への準備不足に対する指摘があった。 （1）授業内容が難解 （2）説明不良 「○○の大事な部分はわかったが、××の重要な部分をもっと明確にしてほしい。」 「口頭の説明が長く→（中略）→大変だった。」 「講義で配られたレジュメではフィードバックがとれず（「？」の間違い）らかった。」 「先生の説明と資料の図のみでは授業内容がほとんど理解できなかった。もう少し詳細な説明文などが欲しいと感じた。」 「重要なところが分りにくかったので、授業で用いる資料などで補って欲しいです。」 「講義の内容をスライドにまとめて頂けると、自分としてはより理解をしやすいかと思えます。」 「利用していた講義資料が余りに難しく、授業中での説明では理解が難しく、また事後の学習でも分かりづらい教材であったため戸惑う部分が多かった。」 （3）授業管理上の問題 「中間試験（教場試験）では、試験開始が遅れたのに終了時刻が変更されなかったのは非常に良くない。試験内容が制限時間ギリギリまでかかるものだったので、時間には厳密になってほしい。」 「シラバスに欠（「書」の誤記）いていないのにいきなりレポート課題を課するのはやめてほしい。」 （4）遠隔授業への準備不足 「オンラインということもあり一方的な熱意のように感じる。」 自己評価： 例年（2019年以前）のアンケート結果（絶対評価で「3.5」以下のスコアはあまりなかったように思われる。）よりも顕著に低い評価結果であったと推測された。「授業内容が難解」という指摘については程度の差こそあれ従来通りと考えられるので、対面授業であれば補えていたかもしれない「詳細な説明」や「熱意（面と向かって語りかけることによって伝える力）」が遠隔授業では十分に機能せず、授業を運営する上で根源的な弱点が露呈したものと思われる。結果的に、総合的な「オンライン授業に対する準備」が不足していたと考えられた。	次年度以降への対策： 当該授業における（1）「難解さ」を乗り越えて、「植物育種学」の醍醐味を理解させるために、（2）「説明力の向上」に努めるとともに、（3）「オンライン授業のスキルアップ」が不可欠であると考えられた。具体的には、以下のように分析し、対策を講じる。 （1）「難解さ」 大学の講義において、「難解さ」に出会うことは「知的欲求」を満たすための極めて大切な出発点である。従って、教科書の歴史に登場するような発見や事象のオリジナルな出典を示すことや最新のアイデアを紹介することは大いに必要なことである。発見当時、その発見を報告した人物以外の多くの同業者（科学者）が理解できなかった事象は多い。引き続きあるいは本年度以上に、授業の中で「難解」な事象を取り上げることとする。そうであればこそ、以下の「説明力の向上」と「オンライン授業のスキルアップ」は喫緊の課題となる。 （2）「説明力の向上」 遠隔授業を経験することで、これまでの授業の「説明力」には根源的な弱点が含まれることが明らかとなった。受講生の「理解力の向上」を具現化できる「説明力の向上」プランを企画・実践する。 （3）「オンライン授業のスキルアップ」 1年間の「オンライン授業」実施の経験、巻間で評価の高い「オンライン授業」に学んで、オンライン授業のスキルアップを図る。 令和3年度には、以上の方針に基づいた授業を実施し、令和3年度アンケート実施結果を検証する。	
10	20341312	植物生産生理学	76	42	55.3	3.93	平均値を下回ったものは2項目のみ（学修マネジメント平均値3.5→当該2.6；主体的学修平均値3.6→当該3.5）で、それ以外は平均値を上回っていた。特に、インストラクション「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」4.5、授業者の特徴「教員は、授業に対して熱意を持っていた」4.4と、平均を大きく上回った。「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の評価が低かった。不慣れなオンラインで最善策が示されないまま試行錯誤の状態に講義を開始せざるを得なかった。最善策があったかもしれないが、対応できなかった。講義形式に関して事前に、情報の共有を担当部署が行うべきではなかったか。	オンライン方式に関する情報が蓄積してきた。評価を上げる方法がわかったので、そのやり方に準じて行う。今回評価が高かったものに関しては現状を維持しさらに改善を加える。双方向性に留意して講義を行う。	
11	20341313	植物病理学総論	37	17	45.9	4.28	全ての項目において概ね良好であった。	双方向講義の充実化を図る予定である。	
12	20342301	灌漑工学	33	18	54.5	4.05	#N/A	#N/A	#N/A

令和2年度農学部授業評価まとめ（前期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
13	20342302	帰帰分析入門	39	20	51.3	4.58	アンケートの回収数が約1/2（20名）であったため、否定的な評価を拾い切れていない気がする。評価項目のほとんどが4.5以上であり、過去最高の評価であった。これは、遠隔講義が初めてだったこともあり、一生懸命準備をした成果かもしれない。これから、初心を忘れずに講義準備を怠らないことを心に留めたい。一方、今回の講義は動画配信であったので、双方向性（4.3）を改善する必要性はある。また、この授業内容についてより深く学びたいかが4.0であり、項目の中で最低点であった。学生の意欲を引き出す講義に改善することが課題である。	学生の意欲を引き出す講義に改善するために、本講義と実際問題とのつながりなどの話題を提供できればと考える。	
14	20342306	農業気象学	24	14	58.3	4.28	教員になっての初めての前期を通しての講義であった。正直準備するので精一杯であった。私自身の経験を踏まえた講義は概ね評価は悪くなかったが、基礎学力習得の箇所は課題を残した。ただし、評価者の学生は比較的好いのか厳しい評価は少なかった。	講義資料は改善の余地が多い。構成と詰め込み量を検討する。ただし、内容が整理されてくると教えること自体に面白みがなくなる恐れがあるので、題材を適宜アップデートする部分も盛り込みたい	
15	20342308	構造力学Ⅱ	24	12	50	4.17	今年度の授業アンケート（授業評価）の回収率は50%となり、前年度（59.1%）より幾分低くなった。今年度は、新型コロナウイルス感染防止のためにオンライン授業となったこともあり、前年度の授業評価結果と比べて、共-60（学生と教員とのやりとりには双方向性があった）や共-67（教員の説明はわかりやすかった）、共-10（総合的に考えて、現在この授業に満足している）の項目については、本授業の評価値、農学部開講科目の平均値共に幾分低下している。授業実施形態の変更（違い）の影響が示唆される。 授業評価結果では、農学部開講科目の平均値より数値が悪かった項目は共-3（授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した）だけであり、かつ共-3、221（この授業内容についてより深く学びたいか）以外の項目の評価値は4以上であることから、授業内容や授業方法については概ね支持されていると判断した。なお、共-60についての評価値は、農学部開講全科目の平均値より幾分（0.4）高かった。 学期末試験結果や授業の出席状況、課題レポートの提出状況・内容などから総合的に判断すれば、今回の授業評価（授業アンケート）結果は、（回収率は十分とは言えないが）授業の実態を概ね反映していると評価した。	次年度も開講することになったので、今年度の課題レポートの提出状況・内容、学期末試験結果、授業アンケート結果などを踏まえて、授業内容や教え方については継続的な改善に努めたい。特に、タイムリーな話題や現場（実務）の問題を授業で取り扱うことによって、授業（内容）に興味・関心を持たせ、より能動的な姿勢で授業に臨ませるようにしたい。また、例年通りであるが、初回授業時に授業のテーマ・目標や授業方針を明確に伝えるとともに、授業中の質疑応答などを通して、学生の理解度を絶えず把握しながら授業を進めるように心がけたい。 授業アンケート回収率向上のためには、更なる工夫・改善が必要である。	特になし。
16	20342309	環境分析化学	35	21	60	4.27	オンラインでリアルタイムの講義を行った。授業評価の項目はすべてにおいて科目群平均より高く、問題ない講義を行うことができたと考える。ただし、“2”の評価が若干名あった。毎回の授業で学ぶべき明確な目標を示すこと、および、授業の難易度については、改善の余地があると思われる。	次年度以降もオンライン対応になる可能性があることを踏まえて、引き続き講義内容および教材の改善を行いたい。	
17	20342314	土質理工学Ⅱ	22	11	50	4.14	授業評価（授業アンケート）の回答率は50%となり、前年度（43%）よりは僅かに上昇（改善）したが、到底満足できる値ではない。今年度は、新型コロナウイルス感染防止のためにオンライン授業となったこともあり、前年度の授業評価結果と比べて、共-60（学生と教員とのやりとりには双方向性があった）や共-10（総合的に考えて、現在この授業に満足している）の項目については、本授業の評価値、農学部開講科目の平均値共に幾分低下している。つまり、授業実施形態の変更（違い）の影響が示唆される。 授業評価結果は、共-3（授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した）、共-221（この授業内容についてより深く学びたいか）以外の項目は、平均値は3.9以上であり、授業内容や授業方法については概ね支持されているようだ。しかし、主体的学習や学修意欲に関する質問項目（共-3、221）の数値が、他の項目よりかなり低い（悪い）ことが気になる。	今回の授業アンケート結果などを踏まえて、授業内容や教え方の継続的な改善に努めたい。特に、タイムリーな話題や現場（実務）の問題を授業で取り扱うことによって、授業（内容）に興味・関心を持たせ、より能動的な姿勢で授業に臨ませるようにしたい。また、例年通りであるが、初回授業時に授業のテーマ・目標や授業方針を明確に伝えるとともに、授業中の質疑応答などを通して、学生の理解度を絶えず把握しながら授業を進めるように心がけたい。授業アンケートについては、回収率向上のための工夫・改善を図りたい。	特になし。
18	20343302	生物生産機械学	11	6	54.5	4.03	#N/A	#N/A	#N/A

令和2年度農学部授業評価まとめ（前期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
19	20343303	農産食料工学	17	8	47.1	4.44	アンケート回収率は低いが、満足度4.8と概ね良好な評価を得た。オンデマンド講義となり、難易度や説明など教材を全て見直すことで、より理解しやすい内容となったと考える。相対的に学習意欲が湧いたという評価が高く、このあとの学びに繋がるものと思う。	主体的学習についての評価は3.9と平均3.6を上回るものの、改善の余地はある。	特になし。
20	20344301	食料農業農村政策学	21	11	52.4	3.87	(1) アンケート回収率が52%で、全体平均58%よりやや低かった。 (2) 評価「5 + 4」の合計は、81：教員熱意で91%と授業準備82%が高く、51：シラバス目標73%・211：難易度64%・67：説明分かり易さ64%・221：より深く学びたい64%で概ね高かった。学部平均との比較では81がかなり高く、51と211が同じかほぼ同じ、67はやや低かった。 (3) 53：毎回授業目標と3：自分で学習が55%、60：双方向性が36%と低かった。学部平均との比較では53がやや低く、3と60が同じかほぼ同じだった。 (4) 10：総合満足度は73%で概ね高く、学部平均との比較ではほぼ同じだった。	1) 科目全体の目標は伝わっていたが、毎回講義の重点目標をより明確化する必要がある。 2) 今期は全面リモート授業だったので、Moodle上の毎回ミニレポートとそれへのフィードバックで補ったものの限界があったと見られる。2021年度は対面講義予定なのでMoodleレポートを続けつつ、授業中の双方向性も時間が許す範囲で行なう。	
21	20344302	農業経営学	22	15	68.2	4.51	以下の全ての項目で、担当講義科目の評価は科目群平均を上回っており、概ね良好な結果であった。特に、学修マネジメント（学生と教員とのやりとりには双方向性があった 4.9）、インストラクション（教員の説明はわかりやすかった、4.7）、授業者の特徴（教員は、授業に対して熱意を持っていた、4.7）、満足度（総合的に考えて、現在この授業に満足している、4.7）の評価が高かった。シラバスの学習目標は明確だった 教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した 授業の難易度は適切であったか 学生と教員とのやりとりには双方向性があった 教員の説明はわかりやすかった 教員は、授業に十分準備して臨んでいた 教員は、授業に対して熱意を持っていた 授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した この授業内容についてより深く学びたいか 総合的に考えて、現在この授業に満足している	引き続き、学生の学習意欲を刺激する内容を工夫する。	
22	20344304	食料流通経済学	21	13	61.9	3.84	授業の双方向性について、相対的に低い評価であった。私自身、初めてのオンラインでの遠隔授業で、どうしても一方通行になりがちであった。大きな反省点である。また、授業の難易度についても評価が相対的に低かった。	授業の中で、セクションごとに区切って理解度チェックをしたい。毎回の課題レポートを提出させて、理解度チェックを試みたが、毎回の内容についての質問が出なかったので、質問を受けやすくする工夫をしたい。	

令和2年度農学部授業評価まとめ（前期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
23	20344305	環境経済学	22	12	54.5	3.79	授業を評価する学生のグループと、授業が難しい等の理由から、1、2名であるが、評価しない学生に分かれているように思います。	わかりずらいという指摘があった講義内容は、よりわかりやすい講義内容になるように対処する。	
24	20344308	農業構造論	24	11	45.8	3.64	全項目において平均値を下回っており、講義内容、進め方の練り直しを検討したい。 特に学修マネジメント、主体的学修の値が低かった。これはオンライン講義における双方向のやりとり不足等が起因していると考えられる。	何から手をつけるべきかは今後検討するが、まずはオンライン講義における双方向性対応を重視したい。	
25	20344309	農業農村計画論	26	14	53.8	3.93	#N/A	#N/A	#N/A
26	20344310	食料貿易論	22	11	50	4.22	10項目中9項目について、学部平均以上の評点を得ることができた。学部平均に満たなかった項目は、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」であった。 また、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」の評点は学部平均より0.6ポイント高いという状況であるため、本授業は学部平均より高い評価を得たものと考えている。	今回の授業は、音声解説付きpptファイルを視聴してもらってeラーニング形式で行ったため、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の評価が低かったことは仕方ないと考えている。今回作成した資料を来年度活用するなどし、来年度講義の質の向上を図りたい。	
27	20344311	食料マーケティング論	34	16	47.1	3.67	概ね、科目群平均と同等の評価となった。1点、双方向性は科目群平均を下回った評価となっている。元来、知識伝達型の授業であるが、今回、すべてオンデマンド方式にしたことも影響したと思われる。質疑については、Moodle上に質疑用フォーラムを設け、講義時間外で質疑対応を行った。前半の回はいくつかの質問が寄せられたが、後半はほとんど質問があがらなくなっていた。こうした授業実施と質疑等のやりとり状況が双方向性の評価を下げたのではないだろうか。	本講義は担当が次年度から代わるので、本講義としての対応ではないが、学生との質疑が行いやすい方法を模索する必要がある。	
28	20344312	生物資源経済論	23	13	56.5	4.02	アンケートの回答を促すアナウンスを最終講義と最終講義前の授業中に2回行ったが、回答者が56.5%と少なかった。この回答率は例年よりも少ないため、オンライン講義（講義録画）の影響によるためと予想される。また、講義評価項目については、学修マネジメント、（学生とのやりとりには双方向性があったか）が低い値となっていた。また、自由回答に「後半の授業内容がとても難しかった」とあった。	学生との双方向性については、対面講義になれば解消されると思われる。また、授業のレベル難易度については、授業録画だけでは黒板に数式展開やビジュアル的な補足情報を説明できなかったが、対面講義になれば解消されると思われる。	特になし。
29	20345303	生物物理化学	40	40	100	4.34	すべての項目で平均以上の評価となっているので、概ねよい評価が得られたと考えられる。	主体的学修「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」の項目は、平均以上の評価ではあるが、たの項目と比べて低点数であることから、学生の主体的学修へつながる仕組みを考えたい。	
30	20345304	有機化学Ⅱ	35	24	68.6	2.52	学生に問題解決能力、理解力、応用力などを身につけさせるために、様々な練習問題を通して学生参加型の講義を試行しているが、基本的には学生の能力の向上につながる結果が得られているように思われる。講義の出欠はmoodleにログインすることにより、自動出欠が記録され、毎回問題を出題してmoodleに回答させることにより評価採点している。問題は講義内容に関連はしているが、教科書には記載していない内容を主として選んでいる。教科書をそのまま覚えれば解答できるのではなく、応用力がなければなかなか正解しにくい点が困難であるようである。	moodleへの解答が不十分で、内容の理解が不十分なまま終了したケースがある。しかも、自ら質問をする学生は全くみられなかった。ただ単に記憶すれば良いのでは無く、できるだけ考えさせるような講義形式をとったが、学生は、あまり慣れていないらしく、自分で考えることができず内容の理解が不十分なようであり、今後の課題となった。	
31	20345305	生物化学各論Ⅰ	43	31	72.1	4.22	アンケート回答率は72%で、内容については全体的に高評価であったといえる。 自由記述回答も良かったという意見だけで、改善点の希望意見はなかった。	オンライン授業で、出席やテストをどのように実施するかなど手探り状態ではあったが、結果として学生にとっていい授業ができたと思う。今後もオンライン・対面授業どちらであっても、学部として必要な生物化学の講義に加え、何か有益になる情報の提供を心がけて行う。	

令和2年度農学部授業評価まとめ（前期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
32	20345306	発酵微生物学	147	87	59.2	4.46	今回、ZOOMでの授業を実施することになり、これまでと全く違うやり方で最初は戸惑った。 回数を重ねていく中で、どのようなことを学生が望んでいるのか授業の感想を読みながら理解していった。 最終的には学生も自分も満足できる内容となった。	せっかくオンライン用に作った資料を、次年度対面である場合には、どの程度利用するのか工夫が必要だと思う。	
33	20345307	生命情報科学	38	36	94.7	3.49	おおむね高い評価を受けたと考える。いくつか3点代のものがあるが、これは農学部学生の数学的寄りの教科に対する関心の低さや数学の学力の低さによる理解の難しさが関係していると考えられる。毎年、この理由に対して大きな努力を行っており、点数が低くなったということではなく、この高さまで引き上げることができたと考えることができる。	次回も少しでも学生が興味を持つことができるように努力したい。	とくになし。
34	20345308	土壌・環境微生物学	37	26	70.3	4.12	シラバス以外の質問項目に対してすべてで科目平均値を上回った。特に、学修マネジメント、主体的学修において評価されたことは今回のオンライン授業に対して熱意とともに工夫をした結果と評価したい。	この形態の授業が続くとは考えられないが、丁寧な説明など、今回の対処から学んだことを今後の授業に生かしていきたい。	
35	20345309	農薬化学	43	25	58.1	2.91	学生に問題解決能力、理解力、応用力などを身につけさせるために、様々な問題提起を通して学生参加型の講義を試行しているが、基本的には学生の能力の向上につながる結果が得られているように思われる。講義の出欠はmoodleにログインすることにより、自動出欠が記録される。また、moodleに授業内容について、コメントすることを課題としている。授業中の問題提起により、教科書をそのまま覚えるのではなく、応用力がなければなかなか解答しにくい、農業/農薬に対する問題意識を高める事に役立った。学生たちは資料調べにより授業内容を補足し、各人あらかじめ、moodleに疑問などを書き込んだ。学生は、講義開始後、質疑応答に対応しなければならないが、多くの場合、学生は十分な対応ができないので、教員が補足説明を行った。予習・コメントの書き込み・それに対する質疑応答のそれぞれの段階で興味をもって対応した様である。	moodleへのコメントの書き込みが不十分で、内容の理解が不十分なままで終了したケースがあることが指摘されている。しかも、自ら質問をする学生はあまりみられなかった。ただ単に記憶すれば良いのでは無く、できるだけ考えさせるような講義形式をとったが、学生は、あまり慣れていないらしく、自分で考えることができず内容の理解が不十分なようであり、今後の課題となった。もっと学生間の討論を活発化する事が望まれる。	
36	20345310	植物生理生化学	39	26	66.7	4.36	サバティカル対応により、担当教員1名で講義を行った。春季より新型コロナへの対応により、オンラインで講義を実施した。理解を深めるため、配布資料を改訂し、双方向性を保つ目的で毎回の講義で簡単な小テストを行い、次回の講義資料で質問に対応した。学生の出席や課題提出の状況は良好であり、意欲を保っている様子が見られたのは幸いだった。初め夏季については流動的であったが、感染が増える傾向にあったため、継続してオンラインで実施し、最終的に試験もオンラインで行った。回収率があまり高くなかった点は反省点である。	共学の観点から、状況が変わり対面講義が可能となることを祈っている。一方で、オンラインが普及したことで、資料の配布方法などは従前の紙媒体で配るよりもmoodleを活かすのが良いと感じた。分かりづらい内容の回についてはよりクリアな伝え方を工夫したい。アンケートの回収率には今後周知を徹底するよう努力する。	
37	20345311	遺伝子工学技術論	48	33	68.8	4.48	受講生の評価は概ね良好であった。この分野に興味を持ったという感想が得られた。毎回小テストをおこなって理解度を把握し、翌週にその解答と解説をおこなったことが、授業内容のより深い理解につながったと考えている。	リモートで、繰り返し視聴できるようオンデマンド方式をとった。1講義あたり平均2.5回の視聴があったことから、対面講義になった場合はより丁寧に解説をしたい。	特になし
38	20345317	栄養化学	48	30	62.5	3.57	やはり、何度も復習はしてくれませんでした。何回も見ることができるようになりましたが、テレビの音は自宅でしている場合、TVは切って録音しているので、どこの音なのか分かりません。研究室で録音するようにします。	説明がわかりづらいとのことですが、何度も見ることが出来る様に、してありますので、それを徹底的に伝えます。	
39	20345318	食糧化学	43	24	55.8	4.28	全体的な満足度は高かったと思われる。	オンライン授業中心となり、授業中の学生の理解度を確認することが困難でスライド送りに不満が出ていた。この点は次年度改善すべき点であると認識した。	

令和2年度農学部授業評価まとめ（前期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
40	20345320	食品衛生化学	42	25	59.5	4.30	学生のアンケート結果は昨年度までとほとんど変わらない。総合評価としての満足度は4.4で科目群の平均よりも0.4高かった。内容的には、今後役に立つものと学生も理解はしている。教科書を指定しており、学問分野への興味もわいているようだが、講義自体が、食品衛生監視員の任用資格取得のための講義の一つであり、講義の最後に毎回、Moodle上で質問を書かせ、回答を作成してMoodle上にアップし次回の講義の始めに回答して問題点認識とその解決の共有化を図っている。この質問への回答は毎年、好評である。記憶しなくてはならない部分が多いため、考える力や調べる姿勢の獲得にはつながりにくいと思われる。内容を削ることは困難なので、シラバスにも授業計画として教科書に対応した講義項目を記載して予習を促している。今年は遠隔での講義のため、毎回、小テストを行って理解度の確認に努めた。	できる限り授業時間中に話す内容の精選につとめ、進行もゆっくりしたいが、食品衛生監視員の任用資格取得のための講義の一つであり、内容が多く、半期の講義では完全に解説できる内容量ではない。内容を削ることは困難なので、学生に予習、復習の徹底を促すことにする。毎回の質問への回答は継続する予定である。内容が多いため、1回の講義で1つの項目を終わることが今案であるが、今年なは遠隔での実施となったため、内容を精選し、講義のテーマの明確化、成績評価基準の明示を心がけた。双方向性については、質問を書かせ次回回答しているが、これは比較的評価されているようである。さらに可能な限り内容の絞り込みを検討し、成績評価基準についてもシラバスにさらに詳しく書きたいが、これ以上は難しい。学生は対面での講義を望んでいる。	
41	20345332	食品工業分析学	40	27	67.5	3.64	web授業のため双方向性が失われたため、授業評価は難しい。	対面での授業を前提に従来型に戻って授業する	
42	20345333	単位操作第二	51	30	58.8	3.77	昨年までの対面講義に比べて、スライドを用いたオンデマンド方式で行なったことにより、スライドに対する不満が見られた。どうしても説明が足りない箇所が出てくるためわかりにくく感じられたようだ。また、試験も遠隔で行い、その提出法に手間取った点もよくなかった。	対面にすることで、多くの問題は解決できると思われる。遠隔講義が必要な場合は、さらに説明を追加するなど対応を行う。	
43	20345405	生物統計学	36	26	72.2	3.55	この授業はオンラインの方が何度も見ることができて、復習しやすいという意見がありました。いつもより評価が高い。	対面授業になっても、オンラインの説明を公開して、復習用に使うってもらうことを考えています。	
44	20346302	森林保全砂防学	39	23	59	3.63	共-53「学ぶべき重要な目標を明確に示した」は科目群平均よりも高かったものの、その他の項目は平均評価点が科目群平均を下回った。その中でも、特に「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」、「この授業についてより深く学びたいか」という項目については、「全く思わない」との回答があった。このことからパワーポイント等の資料で学ぶべき項目は学生に伝わったものの、その内容を学生の反応を見ながら魅力的に説明するよう配慮する必要があると考えられる。	講義に用いる資料の内容を学生の反応を見ながら魅力的に説明するよう配慮する。	本年度はオンライン講義であり、学生側もビデオ画像と音声をオフにしていたため、特に「双方向性」という観点で講義を進めることが困難であった。
45	20346303	森林政策学	45	27	60	4.14	授業の目標設定、双方向性、教員の熱意などの基本的事項については平均で4ポイントを上回り、科目群平均よりも高かったが、主体的学修および学修意欲については、「どちらでもない」や「そう思わない」が40%以上であった。	「主体的に学ぶ姿勢」および「より深く学ぶ意欲」について、感想が分かれた。授業の中で何かを調べて、発見する面白さを伝える工夫をしたい。	
46	20346304	造林学	39	19	48.7	3.74	全体的に項目が平均または平均をやや下回っていた。学ぶべき目標を明確に示していないことは講義を進める上での反省点である。講義に対する熱意を受け止めていただけなかったのは残念ではあるが、真摯に受け止めるべき課題である。	各講義において学ぶべき目標の明確さは改善の必要があると考えている。	
47	20346305	植物代謝制御学	37	18	48.6	3.83	学修目標の明確さ、難易度について、平均をやや下回り、改善の必要性がある。特に、難易度については、明確さと直結するため、見直す必要がある。	難易度を再考し、より具体的な事例を基にして講義を組み立て直す必要がある。	
48	20346306	木質資源理学	34	16	47.1	3.11	#N/A	#N/A	#N/A
49	20346307	森林化学	10	3	30	4.37	ほとんどの項目に関して4以上の回答があったことから、教育効果が得られたと思われる。双方向のやりとりを強く意識して講義を行ったことが反映されたと考える。	難度に関して一部、2の回答があったが、66%は4であったため、小幅な修正を行う。双方向のやりとりを十分に行いながら講義の進捗を維持する方法は引き続き検討する。	特になし
50	20346308	木質材料工学	30	12	40	3.20	オンラインの頻度・内容に改善が必要と思われる。	オンライン講義の在り方について改善を行いたい。	

令和2年度農学部授業評価まとめ（前期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
51	20346309	生物資源化学	20	8	40	4.33	専攻教育科目に相応しい高水準の「生物資源化学」について、単なる情報の記憶ではなく、科学的事象の本質・根本理解に重点をおいた講義を実施した。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面講義を行うことができず、すべてオンラインライブ講義（Zoom利用）となった。スライド講義資料を事前にMoodleで配信し、講義後もMoodleで追加資料を配布することで、理解度の向上に努めた。教員2名で、多糖材料化学から森林微生物工学まで幅広く講義し、全項目で科目群平均を上回る高い評価を得た。特に、各授業の到達目標の設定、説明のわかりやすさ、講義の準備状況、熱意は高評価であった。難しい内容だったが非常に理解しやすかったとのコメントもあり、良質の講義を提供できたと考えている。しかしながら、対面講義のレベルでオンライン講義を実施できたかは定かではなく、例年行っていた中間試験・期末試験も実施できていないので、分野・研究室配属後に適切に補講する必要があるだろう。	コース配属学生の約半数の20名が受講し、非常に意欲的な姿勢で授業に臨んでいた。最初に本講義の概要・位置付けを説明し、重要箇所を繰り返し説明する時間を取った。Zoom講義では一方的になりがちなため、途中でこまめに質問を行い、確認テストやノート提出（写真画像）などで理解度を確認しつつ進めた。Zoomのホワイトボード機能をつかった板書講義にも挑戦し、できるだけ対面と同じ効果が得られるように工夫した。それでも、化学構造の立体モデルなど対面でない説明が難しい部分はあった。授業評価の回収率はこれまで100%であったのに今回は40%に留まり、授業評価の意義を理解させ、回答を促す働きかけを要する。次年度は、ポストコロナの「新しい日常・生活様式」に則った「対面講義」が行えるものと考えているが、本年度に培ったオンライン講義の良い部分を残しつつ、さらに良質な講義を提供できるように努めたい。オフィスアワーの利用学生がいなかったため制度の周知を図り、個々の学生のフォローアップを充実させたい。	次年度は、「新しい日常・生活様式」に則った「対面講義」の実施を標準にして欲しい。
52	20346310	高分子材料学	25	11	44	4.10	「授業の難易度は適切であったか」と「この授業内容についてより深く学びたいか」は、科目群平均を下回ったが、それ以外は科目群平均より高い点であった。平均を下回った項目から、授業内容が難しかったととらえることができる。一方、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」は4.8点あり、熱意は受講者に伝わったようだ。	内容が難しいととらえられている可能性があるが、難易度を下げつつもりはない。より丁寧に講義することを心掛けたい。	
53	20346311	バイオマテリアル科学	21	7	33.3	3.56	「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」に関し、コロナの影響でオンライン講義をしたため、双方向というところが対応できなかった。上記以外は、おおむね良好と考える。	次年度も、本年度と同様に行う。願わくば、対面が可能なら学生と教員とのやりとりには双方向性の部分を考慮したい。	特になし
54	20346312	環境生物学	33	16	48.5	3.84	Zoomを利用したWeb授業であったため、学生とのコミュニケーションに工夫した。そのため、双方向性や教員の熱意については評価が高くなった。その一方で、数名の学生は、このような授業について拒否反応を示したのではないかと推定された。特に簡潔な疑問などを取り取りが不十分な部分があったとされる。	来年度からはクォーター制になるが、今年のWeb形式の授業経験を生かして、対面式講義の改善を図りたい。	
55	20346313	森林水文・水資源学	33	18	54.5	3.85	学生とのやり取り、講義の準備、講義での説明などは平均より高い評価を得たが、授業の難易度、満足度で平均より低い評価となった。学生からは、毎週課される課題の量とテストの問題数が多すぎるといった意見があった。	オンラインで実施する中、グループディスカッションをもっと積極的に使用することで、学生の学習意欲を高める努力を行っていききたい。課題の量やテストの問題数に関しては適切であると考えているが、説明などを工夫したり、質問しやすい体制つくり、改善を図りたい。	アンケートの回収率が54.5%にとどまっているため、講義中に複数回アナウンスするなど、回収率の向上にも努めたい。
56	20346314	森林資源管理学	34	18	52.9	4.17	新型コロナウイルスの影響で対面授業からオンライン授業（ライブ形式）に切り替え実施したが、教員も学生も初めての授業形式であり、スムーズな進行は行えなかった。それでも初めてのオンライン授業（ライブ形式）ということで授業の準備とオンラインならではの実施方法や内容の工夫をしたことである程度の評価を得たものと思われる。	今回のオンライン授業により、オンライン授業のメリット・デメリットを多少把握できた。次年度も新型コロナウイルス感染症の状況は不明であることから、対面およびオンライン授業のどちらにも対応できるように準備したい。対面であってもオンラインを一部取り入れるなどオンラインのメリットを生かしつつ実施したい。	
57	20346321	森林計画学	32	17	53.1	3.85	全体的に科目群平均に近い値であったが、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」は評価が高く、一方、「この授業内容についてより深く学びたいか」は評価が低かった。	オンライン講義では、グループディスカッションやオープニングクエストなどアクティブラーニングに心がけた、この方法は踏襲したい。一方、講義内容をより魅力的なものにするため、最近の情報などをより多く伝えていく予定である。	
58	20346342	森林工学	29	16	55.2	3.74	「シラバスの学習目標は明確だった」と「学ぶべき重要な目標を示した」の項目は科目群平均よりも高かったが、その他の項目は科目群平均より低かった。特に、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の項目は「全く思わない」の回答もあり、オンライン講義での学生とのかかわりに課題があった。	オンライン講義であっても、学生とのコミュニケーションをとれるよう、講義の進め方を改善する。	
59	20347301	動物生殖生理学	20	8	40	4.20	オンデマンド方式による講義であったため「学生と教員とのやりとり」に関しては低い値が出ていた。	対面式に戻れば改善されると思われる。	特になし。

令和2年度農学部授業評価まとめ（前期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
60	20347302	家畜生体機構学	23	9	39.1	3.78	回収率が4割に満たない状況での分析となるが、全体的に科目群の平均値に近い評価結果であった。ただ、「授業の難易度」と「説明のわかりやすさ」の設問に対しては平均よりもやや低い結果であり、今学期はe-ラーニングによる講義を行なったことが評価に影響している可能性も考えられる。	4つの項目で「全く思わない」、6つの項目で「そう思わない」と評価した学生が1-2名ずついたが、学生の評価と成績との関連性が分かれば具体的な対応方法も見えてくるように思われる。今年度の授業形式が影響したことも考えられるため、低い評価が見られた項目について改善できる方法を考えたい。	
61	20347303	動物発生学	20	9	45	4.55	担当講義の集計値は全ての項目において科目群平均より上回っており、授業としての満足度は得られているものと思われる。ただし、学習デザイン（授業の難易度）、主体的学修、学修意欲はそれぞれ4.1、4.1、4.3と他の項目より低い傾向が見られた。動物発生学の学修内容は範囲、分量が非常に多く、難易度が高く感じられるためと考えられる。	動物発生学の必要とされる学修内容、範囲を考慮すると、今現在の範囲、分量を縮小することは困難である。学生から難易度が高いと評価される原因は学修範囲、分量にあると考えられるため、講義ごとの復習の時間、小テスト等での理解度の把握、講義後の質問（対面、メールともに含む）などによりサポートを充実させる。	
62	20347304	動物性食品製造学	21	9	42.9	4.13	本年度はe-Learning方式で実施した。アンケートの回収率は約43%と過去最低であった。共-67の評価が全体平均値より低い以外は、標準的な評価であったと分析した。	アンケートの回収率を上げるよう努力する。また、e-Learning方式で行う場合には音声DATAを入れることにする。ライブ形式の講義形態も検討する。これらの対応策により、学生に理解度は格段に上がると期待される。	特になし
63	20347305	家畜飼養管理学	20	8	40	4.42	履修登録者20名中、8名のみが回答であった（40%）。例年の対面授業では授業時間中にアンケート回答時間を設けるため75~90%の回収率である。しかし今回は遠隔授業であったため学生の回答に対する意識が弱まり、回答率が大きく下がったようである。このためアンケート結果は全体的な評価を十分に反映しないものの、回答した学生の中では全項目を通して概ね4.4~4.8と高い傾向にあった。ただし、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」のみ3.6と低かった。この項目の低さは、農学部全体の平均にもあてはまる。実際には各授業のレポートで関連学習が必要な課題を出しており、レポートに真剣に取り組んだ学生にとっては、自己評価以上に学習量は多かったと推察される。	今回の授業ではアンケート記入依頼をする最終授業日が祝日にあたり、オンデマンド配信にてアンケート記入を促したため回収率が低かったと思われる。もし遠隔授業が継続する場合は、リアルタイム配信授業にて回答時間を設けて、回収率の向上をはかる。今回は例年と異なり、毎回レポート課題を提出させたところ、学生の理解力や考える力の強化に貢献できたと思われる。次回は、対面授業の場合でも適宜ミニレポート課題を提出させるなど、今回の利点を活かしていきたい。	
64	20347306	動物遺伝育種学	19	8	42.1	4.47	リモートによる講義ではあったが、担当講義の結果はすべての項目において科目群平均を上回っていた。	"主体的学習"の結果が最も低かったが、レポートなどの課題を取り入れていく。	特になし。
65	20347320	水産資源学	21	10	47.6	4.59			
66	20347321	魚類免疫学	31	15	48.4	4.57	4.2~4.8と平均をすべて上回る評価であり高い評価であった。特に「教員は、授業に対して熱意を持っていた」は4.8と非常に高い評価を得た。「主体的学修」「学修意欲」が他と比較して低い評価であった。	「主体的学修」「学修意欲」が他と比較して低く、自主的に興味をもたせるように工夫する必要がある。身近な事象と関係して説明し、もっと免疫学や魚に興味を持つようなトピックスを取り上げていきたい。 アンケートの回収率は48.4%と低く、次年度は最終日だけでなく、期日が近づいてきたら何度か周知する必要がある。	
67	20347323	海洋微生物学	31	15	48.4	4.56	回収率が48.4%であり、他の科目と比べると低かった。全ての項目において、科目平均より高い評価を得ており、満足度が4.7であったことから、全体的には好評であったと判断できる。	遠隔での授業となり、アンケートの回収率が低くなってしまったので、回収率を上げる工夫が必要である。 他の項目に比べると双方向性に関する項目の評価が低いので、何らかの対応が必要である。	遠隔授業を行った際にアンケートの回収率を上げる方法があれば、教えて欲しい。
68	20347325	水産生物環境学	23	10	43.5	4.70	評価は4.2-5（平均4.7）と概ね悪くはなかったと思います。逆転授業に近い形をとりました。授業前にmoodleで教科書を事前に予習して設問を解き、当日はzoom説明を補足しながら、学生は課題について発表し、質疑応答をしてもらいました。ば半分の回で発表してもらおうスタイルでした。教師側も面白かったです。	さらに工夫してもっと良くしたい、zoomも悪くない。	

令和2年度農学部授業評価まとめ（前期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
69	20347327	藻類学	36	18	50	4.15	初めての遠隔講義で不慣れな点もあり教員としては疲労感の大きな年度だった。学生は遠隔講義をより多く受けているため、どのような講義が学習効果が高いか、ある程度感じられていると思うので、学生からの評価は平均以上の項目が多かった点を見ると、全体的にはよかったように思う。一方で、私個人が最も学生に臨んでいた「主体的学習」「学習意欲」「満足度」の評価が3点台後半だった点は、講義がつまらなかったと言われているようで、非常に残念であった。本講義の履修者の多くは初学者であるが、どの程度の内容を紹介し、どのレベルまで引き上げるべきか常に迷う。「難易度」「十分な説明」で評価が平均を下回っているのは、その辺りを反映していることだろうと推察された。教員と学生のモチベーションのギャップをいかに埋めるかが今後の課題である。	3年生向けの半期2単位の講義は来年度で終了し、それ以降は4学期制に移行してからは、2年生後期と3年生前期で1単位ずつの講義体系へと変わる。次年度の講義では、再来年度の再編を見越して前半はより身近な生活感のある内容に、後半は多少難易度を挙げた理学的な内容で臨むのはどうかと考えている。また、講義の質を向上が期待できそうなワークショップ、FDがあれば参加してみたい。	

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。（授業評価表の分析の提出がなかったもの除く。）

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	20340203	生物生産生態学	183	93	50.8	3.64	<p>総じて、平均点と同程度かやや低かった。特に値が低かったのは、「学修マネジメント」の「学生と教員のやりとりには双方向性があった」及び「主体的学修」の「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」であった。オンライン形式であったことが大きく影響していると考えられる。</p>	<p>オンラインソフトの使用法を習得し学生との双方向性を改善したい。説明内容及び方法の改善、補足資料の充実等をおして受講者の理解度を高めた。</p>	<p>受講性が多く（180人程度）、オンライン形式であったことから、他の講義との比較は難しいと思われる。またコース共通科目、選択必修であるため、科目に興味のない学生の比率が他の選択科目より高いと考えられる。受講者の反応がみえないことが講義の進め方に影響した。また、オンライン形式の講義はこれまでになく、機器や通信のトラブル等が発生したが、その際の個々のトラブルへの対応や、出席の集計や試験の採点など、労力と時間を要した。次年度も受講生が多いことが予想され、講義室の収容可能数に制限があるためオンライン形式で実施することになるが、改善できるよう努力したい。</p>
2	20340204	生物化学	149	107	71.8	4.30	<p>すべての項目で科目群平均値よりも僅かに高い数値となっていたことから、ある程度の講義を行えた可能性が高いと考えられる。遠隔講義となったため、双方向性に気を配ったつもりであったが、数値から判断してあまり有効ではなかったと判断できる。</p>	<p>基本的に今回と同じ講義方法で行うが、遠隔講義となった場合には、特に双方向性に配慮してすすめる予定である。</p>	<p>回収率が例年より低かったことを改善するために、アンケート開始の日にちを1週間程度早めて頂きたい。特に遠隔講義の場合、講義中で記述時間をとったとしても、確実に答えさせるのは難しいため、期間を配慮して頂きたい。</p>
3	20340205	有機化学Ⅰ	89	57	64	3.70	<p>学生と教員とのやりとりの双方向性の評価が低かったが、これは途中から実施したりリモートでの講義に十分に対応できなかったためであると思われる。また、授業の難易度が高いとの意見が見受けられたが、使用している教科書は一般的な学部レベルの教科書であり、授業内容も教科書の範囲内であることから考えて授業内容は適切であったと考える。</p>	<p>学生と教員とのやりとりの双方向性を向上させるため、小テストの導入等などを検討する。</p>	

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
4	20340206	物理数学	121	78	64.5	4.05	<p>各項目の平均値（括弧内の数値は昨年度の値）は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.3（4.3）、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.5（4.4）、「授業の難易度は適切であったか」=4.2（4.2）、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.5（3.6）、「教員の説明はわかりやすかった」=4.3（4.4）、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.4（4.5）、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.2（4.3）、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」=3.3（新規項目）、「この授業内容についてより深く学びたいか」=3.5（3.7）、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」=4.3（4.4）、以上であった。</p> <p>昨年度と比較して、各項目で評価値が僅かではあるが増減しているものの、全体的に見ると昨年度と概ね同レベルの評価結果と解釈した。今年度は新型コロナウィルス感染症の影響で、昨年と同じ講義内容を初めて遠隔授業形式で実施したが、予想以上に高い評価で、担当教員にとって安堵の評価結果であった。本授業科目は、多様な（多分野の）学生たちの多様なニーズに応えるため、教授する内容が非常に多く、「双方向授業」の時間的な余裕がほとんど無い、という特殊事情がそもそもあり、加えて今年度は遠隔授業であったため、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の評価が低くなることを予想したが、数値自体は対面授業の前年度（3.6）とほぼ同じ値（3.5）となった。逆の見方をすれば、対面授業時の双方向性が、遠隔授業時の双方向性とほぼ同じ程度とも解釈でき、反省材料といえるのかもしれない。</p> <p>「この授業内容についてより深く学びたいか」も引き続き評価が低い。学生の講義内容の理解度を示す「教員の説明はわかりやすかった」や「授業の難易度は適切であったか」は高評価となっており、「深く学びたい」が低評価の理</p>	<p>高評価項目はその評価レベルを維持すること、低評価項目は、「双方向授業」の項目も含め、評価レベルを向上させること、以上を意識して、より面白い、学生の興味をより引き出すような講義を常に目指して、次年度の講義に取り組みたい。</p> <p>なお、アンケートの回収率は、一昨年度が62.6%（=72/115）、昨年度が57.4%（=81/141）、今年度が64.5%（=78/121）と若干上がっている。今年度は遠隔授業で、Moodleや講義ビデオで繰返しアンケートへの協力依頼を行った効果と考える。</p>	特になし。
5	20340207	数値解析学	55	40	72.7	4.53	<p>全ての設問において、担当講義の評価点は農学部の科目群平均を上回り、受講者の満足度が高い評価を得た。過年度に不振であった「授業の難易度は適切であったか」の評価が改善したことは、受講者の修学状況を捉える努力の現れと理解した。</p>	<p>個別の評価を観ると、「授業難易度が適切であったか」、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」の2項目の評価点その他のそれよりもわずかに低かった。来年度は、実問題を絡めた例題を増やし、受講者のモチベーション向上を目指す。</p>	
6	20340208	数値解析学	43	28	65.1	4.46	<p>「総合的に考えて、現在この授業に満足している」の評価において、そう思う、強くそう思うが約92%であったことから、受講生は授業を通してある程度基礎的なスキルを習得できたのではないかと考えている。一方、後半内容で理解が追いつけなかった、課題を減らして欲しいと回答した学生も見られたことから、内容の精査と課題の加減する必要があると感じた。また、ドリルの質問欄への回答に対して喜んでくれた学生さんがいたので、継続的に丁寧な回答に取り組むたい。</p>	<p>後半の講義について内容が難しくなり過ぎないように精査する。また、課題が適切な量になるように調整する。ドリルの質問欄への丁寧なフィードバックを心がける。</p>	
7	20340209	ミクロ経済学	28	14	50	4.32	<p>ほぼすべての項目で科目群平均より高い評価を得ることができた。ただ、コロナ禍で試験を対面からオンラインに急遽変更し、開講当初に受講者に予告していた試験内容を変更せざるを得なかったため、ごく一部の受講者ではあるが、やや不満が残る形になった。</p>	<p>総じて高い評価を得ることができたので、次回も同様の講義を行いたい。ただ、コロナ禍で授業や試験の方式が講義期間途中で変更になった場合の対策を事前に練る必要がある。</p>	0

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
8	20340210	政治経済学	31	13	41.9	4.01	<p>(1) 履修登録者数31に対してアンケート回収率42%で、全体平均の59%より低かった。</p> <p>(2) 評価「5+4」を見ると、51:シラバスの学習目標100%, 68:教員授業準備92%, 81:教員熱意92%が特に高く、53:毎回授業の重要目標76%, 211:授業難易度77%, 60:双方向性69%, 67:説明分かり易さ69%も比較的高かった。これらの項目で授業の設計・運営は基本的に適切だった。</p> <p>(3) ただし60と67では「3+2」も31%あった。自由記述でMoodle上での毎回ミニレポートとそれへのフィードバックへの高い評価が見られたが、それを感じられなかった受講者も一定数いた。</p> <p>(4) 評価「3+2」が、3:触発されて自分学習62%, 221:より深く学びたい62%だった。「政治経済学」という学問分野へのいざないという点では、不十分さがあつたかも知れない。ただし農学部の科目全体等でどうだったのかとの比較でこの結果をどう評価すべきかは判らない。学生に一般的にいわれる「アクティブラーニング」の思考や習慣が十分身につけていないのか、それとも本講義に固有の問題があるのか、判断し難い。</p> <p>(5) 10:総合満足度は「5+4」で92%だった。成績分布ではA43%, B29%, C14%, D14%だったので、結果的な成績とは関係なしに満足度は高かったと言える。</p>	<p>1) アンケート回収率向上のために、講義中に何度も回答を促す。</p> <p>2) Moodle上ミニレポートとそれへのフィードバックを継続し、質的向上も図る。</p> <p>2) 国内外の政治経済および政治経済学への自己学習、学問的いざないを強めるために工夫をする。時事問題を例示する時などに、それらの複雑な現実世界の解釈や問題解決に政治経済学がいかに関与しているかを積極的に講述することなどが考えられる。</p>	
9	20341201	遺伝学	39	26	66.7	4.26	<p>難易度は、物理選択の学生にも考慮した。</p> <p>「学生と教員とのやりとりには双方向性があつた」が平均を下回っていた。</p>	<p>オンライン授業においても、双方向性を高められるように工夫したい。</p> <p>質問時間を長くとり、オンラインフォーラム欄をMoodleに設けるなど。</p> <p>また、講義中に考える時間を設定するなど。</p>	
10	20341202	作物学総論	54	33	61.1	4.35	<p>全ての評価項目について、科目郡平均を上回っていたことから、途中でオンラインに切り替わったものの、概ね講義の内容等について、量および質を担保できたのではないかと考える。</p>	<p>プリントに掲載するスライド枚数を増やして欲しいとの要望があつたので、プリント自体の枚数を増やす方向で考えたいと思う。</p>	
11	20341203	園芸科学総論	52	34	65.4	4.36	<p>教員の授業への取り組み（わかりやすさ、準備状況、授業への熱意）についての評価が比較的高い傾向にある一方で、主体的学習のカテゴリーに相当する「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」が相対的に低い傾向にあつた。全体として、一定の満足が得られた授業と評価していただいている。</p>	<p>比較的高評価だったカテゴリーについては、次回も継続して取り組んでいくとともに、主体的学習を促すような取り組みについて考えていきたい。</p>	<p>アンケートの回収率が低いので、学生のアナウンスの工夫をしたい。</p>
12	20341204	植物生理学	39	25	64.1	4.47	<p>多くのカテゴリーで評価4.5を越えていた。しかし、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」の評価が4.0、「この授業内容についてより深く学びたいか」の評価が4.3とやや低かった。</p>	<p>主体的学習と学習意欲を高めるため、まず、授業内容に関してもっと知りたかったことをレポートとして提出させてみることを始めてみたいと思う。</p>	
13	20341205	微生物学	41	23	56.1	3.90	<p>概ね良好な評価であつた。</p>	<p>引き続き良好な評価を受けられるように対応する予定である。</p>	

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
14	20341206	基礎昆虫学	41	32	78	4.25	「教員は熱意を持っていた」と「教員は十分に準備して臨んでいた」は、いずれも4.6と評価が高かった。「教員の説明の分かりやすさ」については4.4と昨年と同じだったが平均を上回った。また、「授業の難易度」4.2、「学生と教員とのやりとりの双方向性」は4.5と昨年よりもややポイントが上がった。一方、「授業に触発されて自分で学習した」は3.7、「より深く学びたいか」は3.6、という低い評価だったため改善の余地があるが、総合評価は4.4ポイントであったことから、総じて満足度は平均以上と判断できる。	「学生と教員とのやりとりの双方向性」は4.5だったが、質問があれば授業時間内にメールで質問してもらい、次の授業で全員に向けて毎回丁寧に答えたため、リモートになってもこの項目の評価が上がり、「授業の難易度」も適度に保てた要因だと思われる。次回の講義でも同様に双方向性を確保したい。一方、「主体的学修」を評価する「授業に触発されて自分で学習した」の項目の評価が思ったより低かったので、さらに自発的な学習を触発するように工夫したい。	「主体的学修」の質問内容が「授業に触発されて自分で学習した」に変更されたのは、この項目を評価する上でよかったと思う。また、昨年と同様に授業中にアンケートを実施したが、回収率は78%と昨年よりもやや上がった。これは、昨年と比較して、授業への関心度も上がったことによるものと思われる。
15	20341207	生物統計演習	35	22	62.9	3.96	主体的学修、学修意欲については評価が4を切った。これは生物統計学を用いる状況がまだ確立していないなかで、学習する意欲が触発されなかったものと考えられた。とくに満足度4の学生は、本項目の評価が低い傾向があった。授業としては満足しているが、主体的に生物統計を学ぶ意欲を掻き立てられないのは、決まり決まった手法で計算させる生物統計の特徴から、授業内容以上の内容を勉強する意欲が上がらないものと考えられた。	次回の講義では、理論的な側面の教材は添付資料として提供するとし、より実践的な課題を解決する問題形式で取り組ませる方法に切り替えるべきではないかと考えた。	
16	20341307	植物育種学各論	31	14	45.2	3.64	教員の熱意などは評価されていると思うが、授業の難易度が高く、学習意欲が低下する傾向があると考えられた。本分野では重要な理論や情報を網羅する内容であるが、教科書の内容が古く、配布資料はなるべく配布しているものの、説明が不十分となることで、主体的な学習をすすめることができないものと考えられた。	要点とその内容のみに絞り、理解度を高める授業内容に改善を進める。より深く学修を進めたい学生については、追加的な配布資料としてmoodle等にアップするなどの対応を行う。	
17	20341308	植物病理学各論	32	18	56.3	4.47	対面が数回しか実施できず、オンラインが主体であったが、全体的にまずまずの評価であった。	評価項目の低いものについての改善を予定している。	
18	20341309	熱帯作物・環境学概論	51	25	49	4.10			
19	20342201	土壌学	72	57	79.2	4.47	昨年度までの受講者は生物生産環境工学分野と生物生産システム工学分野の2年生が主体であったが、今年度から農学分野と農政経済学分野の3年生が多数加わったため、受講生数は昨年度の38名から72名へと大幅に増えた。また、講義のおよそ2/3は対面授業を実施しながらこれをオンラインで同時配信（ライブ配信：MS Teams利用）するというスタイルをとった。また、残りの1/3の講義はオンライン配信（ライブ配信：MS Teams利用）のみとなった。このため、板書が利用できず、またこれまでの講義スタイルを大幅に変えざるを得なかった。このように授業の条件が悪かったにもかかわらず、授業アンケートではすべての項目で平均以上の評価が得られた。とくに、質問番号共6-8「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」で4.9、質問番号共8-1「教員は、授業に対して熱意を持っていた」で4.8と評価が高かった。これは、昨年度以前と同様の傾向であり、本講義のこれまでの長所が損なわれなかったものと考えられた。	本年度の本講義に対しまして高い評価が得られたのは、各講義の回において、(1)これまでの授業の要点の振り返り、(2)学生からの質問への回答を実施している、ことが評価されたためと考えられる。この点については必ずしもポジティブな評価ばかりではないが、全体的にこのスタイルが功を奏しており、有意義に働いていると考えられるため、次年度以降もこのスタイルで臨むこととする。	

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
20	20342202	気象学	51	28	54.9	3.91	<p>学生に講義に対する熱意は感じてもらったようであるが、まだわかりにくいと感じられ、その部分から受ける印象に関連する項目の評価が低かった。これは前期の農業気象学の講義とは異なる評価結果である。2年生で幅広い分野の学生が受講生の気象学と3年生で比較的専門に近い方が対象の農業気象学の違いが反映されたかかもしれないが要因は不明である。ただし、今回の成績上位者の数と評価で高評価を頂いた数は概ね一致する。そのことは気象学の関心のある方、専門に近い方などから比較的肯定的であったことがうかがえる。</p>	<p>講義に盛り込む内容と構成を改善することで対応したい。また初年度であったので講義資料を作ることがまず第一であり、改善の余地はあることは否めない。ただし、単なるわかりやすさだけを追求するのではなく、難しくても好奇心を持たせせるような講義スタイルも一方で追求していきたい。</p>	
21	20342203	水環境工学	43	25	58.1	4.14	<p>各項目の平均値（括弧内の数値は昨年度の値）は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.6（4.1）、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.5（4.1）、「授業の難易度は適切であったか」=4.3（4.0）、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.3（3.6）、「教員の説明はわかりやすかった」=4.3（4.2）、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.6（4.3）、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.4（4.3）、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」=3.4（新規項目）、「この授業内容についてより深く学びたいか」=3.7（3.9）、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」=4.3（4.2）、以上であった。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、遠隔授業形式で実施し、予め作成した講義ビデオをYouTubeにアップロードして、学生は授業時間帯にオンデマンド・ストリーミング配信で視聴した。担当教員にとって初めての試みであったが、授業アンケート結果は、昨年度と比較して、「双方向性」を除き、ほぼ全項目で評価値が上がっており、効果的な授業構成、授業コンテンツが提供できたものと安堵している。</p>	<p>来年度は対面授業による実施になると予想する。一昨年度と昨年度では、同じ講義内容、講義形態で一昨年度の方が高評価となっていたことから、次年度も講義内容や講義形態を大きく替えるつもりはないが、同じようにしても評価が下がることがあることを意識して、講義に臨む必要がある。</p> <p>なお、アンケートの回収率は、一昨年度が43.5%（=20/46）、昨年度が69.2%（=27/39）、今年度が58.1%（=25/43）と、昨年度に比べると今年度は若干低下している。今年度はMoodleや講義ビデオの中で授業アンケートへの協力依頼を行ったが、繰返し依頼する必要があるのかもしれない。</p>	特になし。
22	20342204	水理学Ⅰ	38	21	55.3	4.09	<p>質問10項目のうち7項目で、「4：そう思う」と「5：強くそう思う」のポジティブ回答が8割を超えており、昨年度と同様な高い評価を受けた。ただし、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策を考慮し、これまでの講義形式とは異なり、YouTube限定を利用した授業動画配信によるオンデマンド形式とした。このオンデマンド式に変更したことが、アンケートにも強く反映された。具体的には、学習マネジメント（学生と教員とのやりとりには双方向性があった）、主体的学修（授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した）と学修意欲（この授業内容についてより深く学びたいか）の設問項目に対して、例年よりもネガティブ側の回答であった。本講義が、農学部学生において不得意とされ毛嫌いされる数物系科目であることから、オンデマンド式によって主体的学修や学修意欲を促しきれなかったと分析できる。</p>	<p>昨年度までの講義形式では、学修デザイン、インストラクション、主体的学修、学修意欲のいずれも満足度4を超えており、これまで通りの対面式の講義方式で全く問題はないと考える。ただし、新型コロナウイルス感染防止対策で、遠隔方式による講義の実施が求められた場合は、何らかの対策は必要と考えるが、今の時点ではその方策が思い浮かばない。</p>	

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
23	20342205	土質理工学Ⅰ	23	15	65.2	4.32	<p>前年度の授業アンケート（評価）回収率は69.2%（23人中15人のみ回答）となり、前年度（58.3%）より少しは高くなったが、満足できる値ではない。授業アンケート（評価）結果については、主体的学習に関する項目である共-3（授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した）以外の項目については、農学部開講全科目の平均値より評価値は高く（よく）、かつ共-3、221（この授業内容についてより深く学びたいか）以外の項目の評価値は4以上であった。この結果から、授業後半では、オンライン授業に移行したが、授業内容や授業方法などについては、概ね理解されていると判断した。しかし、主体的学習や学修意欲に関する質問項目（共-3、221）の数値が、他の項目よりかなり低い（悪い）ことが気になる。</p> <p>学期末試験結果（前年度より平均点は僅かに（5点程）上昇し、合格率で約14%上昇）や出席・受講状況（前年度より僅かによい）、課題レポートの提出状況（前年度とほぼ同じ）などから総合的に判断すれば、学期後半オンライン講義になり、特に後半内容を変更せざるを得なかった。現地にも行けなかった。</p>	<p>学期末試験結果や授業評価（授業アンケート）結果などを踏まえて、授業内容や教え方の継続的な改善に努めたい。特に、タイムリーな話題や現場（実務）の問題を授業で取り扱うことによって、授業（内容）に興味・関心を持たせ、より能動的な姿勢で授業に臨ませるようにしたい。また、例年通りであるが、授業のテーマ・目標や授業方針を明確に伝えるとともに、授業中の質疑応答や課題レポートなどを通して、学生の理解度を絶えず把握しながら授業を進めることを心がけたい。</p> <p>授業アンケート（評価）については、回収率向上のために更なる工夫・改善に努めたい。</p>	特になし。
24	20342208	生物生産環境工学概論	24	14	58.3	4.33	<p>授業評価（授業アンケート）の回答率は、前年度（54%）よりやや高く（59%）になったが、未だ満足できるレベルにはほど遠い。今年度から授業で取り扱う項目の範囲・内容（質）が変わり、かつ新型コロナウイルス感染防止のためにオンライン授業となったこともあり、前年度の授業評価結果とは単純に比較できない。</p> <p>今年度の授業評価結果では、農学部開講科目の平均値より数値が悪かった項目は共-221（この授業内容についてより深く学びたいか）だけであり、かつ共-60（学生と教員とのやりとりには双方向性があった）や共-3（授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した）、共-221以外の項目は、評価値は4.1以上であることから、授業内容や授業方法については概ね支持されていると判断した。しかし、主体的学習や学修意欲に関する質問項目（共-3、221）の数値が、他の項目よりかなり低い（悪い）ことが気になる。また、共-60の評価値が担当する他の授業科目の場合より相対的に低かったのは、課題レポートの添削がなかったことを反映しているようだ。</p>	<p>今回の授業アンケート結果などを踏まえて、授業内容や教え方の継続的な改善に努めたい。特に、タイムリーな話題や現場（実務）の問題を授業で取り扱うことによって、授業（内容）に興味・関心を持たせ、より能動的な姿勢で授業に臨ませるようにしたい。また、従来通り初回授業時に授業のテーマ・目標や授業方針を明確に伝えるとともに、授業中の質疑応答などを通して、学生の理解度を絶えず把握しながら授業を進めるように心がけたい。</p> <p>授業アンケートについては、回収率向上のための工夫・改善を図りたい。</p>	0
25	20342303	農地環境工学	27	16	59.3	4.23	<p>学修目標、重要な点の理解が不十分な学生が1名いたので、次年度はより丁寧な説明が必要と考える。</p> <p>また当該授業ではGWを実施したが、受講生の中には図書館からの出席者もいたようで発言が出来なかったとの回答があった。この点は全く想定していなかったので、対策を講じる必要がある。</p> <p>GWは概ね学生に講評であったが、1名の学生はGWは不要との回答であった。どのような理由で不要なのかは不明であるが、もしGWの必要性の理解が不十分であるとすれば、教員側からの理由をより丁寧に説明したいと思う（授業で学んだ知識に基づいて、課題に対して解決アプローチを論理的に行い、また他者にその考えを伝える力を養うため、など）。</p>	<p>今回の授業アンケート結果などを踏まえて、授業内容や教え方の継続的な改善に努めたい。特に、タイムリーな話題や現場（実務）の問題を授業で取り扱うことによって、授業（内容）に興味・関心を持たせ、より能動的な姿勢で授業に臨ませるようにしたい。また、従来通り初回授業時に授業のテーマ・目標や授業方針を明確に伝えるとともに、授業中の質疑応答などを通して、学生の理解度を絶えず把握しながら授業を進めるように心がけたい。</p> <p>授業アンケートについては、回収率向上のための工夫・改善を図りたい。</p>	特になし。
26	20342304	園芸環境工学	32	27	84.4	4.37	<p>どの質問項目も科目群平均値を上回っていたが、若干名の回答で回答1（全く思わない）、2（そう思わない）と回答した学生がいた。</p>	<p>学修目標、重要な点の理解が不十分な学生が1名いたので、次年度はより丁寧な説明が必要と考える。</p> <p>また当該授業ではGWを実施したが、受講生の中には図書館からの出席者もいたようで発言が出来なかったとの回答があった。この点は全く想定していなかったので、対策を講じる必要がある。</p> <p>GWは概ね学生に講評であったが、1名の学生はGWは不要との回答であった。どのような理由で不要なのかは不明であるが、もしGWの必要性の理解が不十分であるとすれば、教員側からの理由をより丁寧に説明したいと思う（授業で学んだ知識に基づいて、課題に対して解決アプローチを論理的に行い、また他者にその考えを伝える力を養うため、など）。</p>	<p>学生と教員の双方向性を求める声が出ていたが、授業では質問時間を設けたり、GWを行って解説も実施していた。学生全員の要望に応えることの難しさを感じた。</p>

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
27	20342319	水文学	28	14	50	4.29	<p>本科目は、今年度始めて開講の科目で、各項目の平均値は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.6、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.8、「授業の難易度は適切であったか」=4.5、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.4、「教員の説明はわかりやすかった」=4.4、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.6、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.4、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」=3.7、「この授業内容についてより深く学びたいか」=3.9、「総合的に考えて、現在の授業に満足している」=4.6、以上であった。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、遠隔授業形式で実施し、予め作成した講義ビデオをYouTubeにアップロードして、学生は授業時間帯にオンデマンド・ストリーミング配信で視聴した。担当教員にとって初めての試みであったが、授業アンケート結果は、「双方向性」を除き、全項目で高評価が得られており、効果的な授業構成、授業コンテンツが提供できたものと安堵している。</p>	<p>来年度は対面授業による実施になると予想する。今年度と授業形態が異なるため、今年度からのフィードバックは難しいが、次年度は講義内容を大きく替えるつもりはない。</p> <p>なお、アンケートの回収率は、50.0% (=14/28) であった。今年度はMoodleや講義ビデオの中で授業アンケートへの協力依頼を行ったが、繰返し依頼する必要があるのかもしれない。</p>	特になし。
28	20342323	土壌物理学	24	14	58.3	3.81			
29	20343201	農業情報学	32	27	84.4	3.90	農学部ではあまり類のない小型コンピュータを使ったプログラミング実習であったため、難易度（共-211），理解度（共-67）について評価が低くなった。	難易度（共-211），理解度（共-67）や学習目標（共-53）の明確化などの再検討する予定である。	学部秋・冬学期もありますので，選択項目を増やしていただけないでしょうか。
30	20343308	機械設計学	11	6	54.5	4.60			
31	20343309	応用熱工学	12	5	41.7	4.78	いずれの項目とも平均を上回り，満足度は5.0と高い。オンデマンドのWeb講義であったが，受講したいときに受講できる点，繰り返し動画を見て学習できる点等，良い評価を受けている。	Web講義の利点を活かしたハイブリッド講義の可能性を探り，より高い質の授業を目指す。	Web講義は思った以上に好評であると感じた。
32	20343310	自動制御工学	11	6	54.5	4.32			
33	20343311	構造力学	32	21	65.6	3.53	学習目標（共-53），難易度（共-60），授業の双方向性（共-67），満足度（共-10）に関して低い評価となった。今回はコロナ禍でもあり，これまでの講義以上に授業の双方向性が失われることを想定して，コンピュータシミュレーション動画，補足説明資料などの利用やMoodleでの資料共有を増やして対応したものの，十分な効果が得られていないことがわかった。一方，演習問題の解答率から，物理学や力学自体を十分に理解できていない学生も複数受講していることから，上記の低評価項目とのクロス分析が必要であることもわかった（独自の評価手法の導入が必要）。	本講義は，当該分野学生において，3年次履修項目や卒業研究，さらには実社会での利用において重要な科目であることから，その点をよりわかりやすく説明できるように，テキストや補足資料を改善する予定である。加えて，理解度を評価しつつ，講義を進められるような評価手法の導入を検討する。	「科目群平均」とありますが，その内容がわかっていないので，どのような科目の平均かをご教示ください。その辺りの傾向も一緒に今後は評価を行ってみたいです。
34	20344201	経済政策論	31	13	41.9	4.17	平均値と比べれば概ね高い評価を得ることができた。特に教員・学生間のやりとりにおける双方向性については高い評価を得ることができ，オンライン形式の中でもコミュニケーションの重要性を改めて認識した。一方，満足度が低かった点については今後の改善点である。	講義内容そのものへの興味喚起が重要であり，学生に身近なトピックも盛り込みつつ，講義内容を組み立てていく。	
35	20344202	経営科学	29	16	55.2	4.12	「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」は科目群平均3.8に対して担当講義4.6、「授業の難易度は適切であったか」は，科目群平均4.3に対して担当講義4.0等の評価であった。その他の項目も全体的に科目群平均とほぼ同程度であった。このことから，担当講義は概ね妥当であったといえる。	さらに学生が学問的刺激を受ける内容となるような工夫を行う。	

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
36	20344204	経済数学	19	10	52.6	4.00	「総合的に考えて、現在この授業に満足している」の項目がわずかではあるが学部平均以上であったため、総合的には概ね良い評価を得られたと考えられる。ただし、10項目のうち、5項目で学部平均を下回っており、最も下回っていたのは「教員は、授業に対して熱意を持っていた」であった。数式の説明が中心となるため、理路整然となるよう極力淡々と話すようにしたことが、この結果につながったと考えられる。また、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」も学部平均を下回ったため、学生の興味関心を呼び起こすような説明方法が求められたと考えられる。	当該授業は来年度以降、開講されない。	
37	20344205	計量経済学	20	11	55	3.76	録画した講義の中でアンケートの協力依頼を行ったが、アンケート回収率は55%（11名/20名中）と低かった。 対面講義では、パワポのスライドを中心に説明を行い、数式展開の補足や統計学の補足説明を板書で説明していたが、講義録画ではそれができなかった。そのためか、「双方向性のある講義（学習マネジメント）」という項目の評価が平均より低く、結果として「主体的学習」「学習意欲」も平均より低くなってしまった。	今まで板書していた補足情報もスライドの中に入れて説明する。	特になし
38	20344206	ゲーム理論	20	11	55	3.98	概ね科目群と同水準の評価となっている。なお、科目群と同様に双方向性の評価がやや落ちるが、重要な基礎理論の学習であるため、カバーする範囲と正確な伝達を重視して講義し、その分、双方向性は犠牲になっている。この点は、講義の狙い上、致し方ないと判断する。	配布資料と講義スライドのずれがあり混乱したとのコメントが1件あった。これはおそらく特定の1回の講義回での資料のことだが、例年は、どのように配布資料を使っていくか補足していた（あるいは学生から質問があった）が、今回、この補足をせずに講義を進めたための指摘である。担当する授業全般における今後の注意点としたい。	
39	20344207	経済統計情報論	19	10	52.6	3.60	授業評価に双方向性があったという点については、高い評価を得ていたが、その他の項目については、必ずしも良好な評価とは言えない点もあった。	学生の関心が高まるように工夫していきたい。	
40	20344208	社会調査分析論	24	12	50	3.96			
41	20345204	分析化学	74	54	73	3.56	今年度の授業評価は、科目群平均と比較して各質問とも低くなっていた。特に、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」「教員の説明は分かりやすかった」「教員は十分準備して臨んでいた」の項目について、科目群平均に対する差が大きかった。これらの理由として、今年度は感染症対策として、教室が受講人数に対してかなり広く学生との物理的な距離が大きく、また、遠隔講義への講義内容や実施方法への対応が必要であったが、これらが不十分であったためだと考えられる。	次年度以降も感染症への対応が必要になる可能性があるため、距離が離れていても効果的な講義ができるよう準備する。なお、次年度は科目が分割されるため、改めて講義内容および実施方法も含めて検討していきたい。	
42	20345205	単位操作第一	84	58	69	4.36	アンケートの集計結果によると（69%）「シラバスの学習目標は明確だった」「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」「この授業内容についてより深く学びたいか」の問いに対して「2.どちらともいえない」と回答する学生が12%～25%いたため、改良の余地があると考えられる。	さらなる学習目標の明確化、また学生の学問・研究への関心、向上につながる授業が行えるよう、次年度以降も学生の声に耳を傾けながら、工夫を凝らし授業を続けていきたい。	

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
43	20345206	基礎微生物学	81	67	82.7	4.09	本年度は、前半は対面で行っていたが、1月からCOVID-19の感染拡大状況が悪化したため、大学の方針に従い遠隔授業に変更した。対面でも遠隔でも学生からの評価は概ね良好であったようである。COVID-19で授業方針が不安定で（例えば出席評価の行い方）などについて、教員と学生の間で多少の齟齬があり、多少の混乱もあった。実際には、毎回、Moodleで小テストや課題を与えて、それに答えることで出席とすることにした。多少の混乱があったが、それなりにきちんと機能し、それ以上に、毎回理解度の確認が多少なりともこのシステムでできたので、それが学生の理解度の向上に上手くつながったものと思われる。	次年度も、COVID-19感染拡大への配慮は続けていかなければならないと思うが、本年度の上記の形式（Moodleを不断に活用する形式）を用いることで、学生と教員双方充実した講義が展開できるものと思う。	
44	20345207	生命化学	72	54	75	4.13	各質問項目は大部分が科目群平均値と同程度かそれ以上であり、特に共-221（学修意欲：この授業内容についてより深く学びたいか）は、科目群の平均値3.8を0.3ポイント越えて4.1であった。一方で共-60（学修マネジメント：双方向性）は科目群平均値よりも0.2ポイント低く、本項目について改善が必要と判断された。	今年度は講義途中（12月後半）でオンラインへ変更したため、受講生との双方向性が低下したことが否めない。来年度は座学で実施予定のため、質問への回答などで講義内での双方向性を確保し、それを向上させる予定である。さらにオンライン講義となった場合にも双方向性が低下しないよう講義内容に関連するクイズやQ&A等を実施することで対応したい。	
45	20345208	物理化学	72	52	72.2	4.12	概ね4.0以上の評価となっていたが、双方向性、主体的学修、学修意欲が4.0より低く、今後は改善につとめていきたい。	これまで通りの授業を継続していくと共に、双方向性、主体的学修、学修意欲の向上につとめていきたい。	
46	20345312	生物解析・機器分析法	42	25	59.5	4.10	オンラインで実施したためと思われるが、学生とのやりとりにおける双方向性についての評価が低かった。	多数の教員によるオムニバス講義であるが、来年度もオンライン授業となる場合、双方向性を持たせることに注意を、講義担当に促したい。	特にありません
47	20345313	生物化学各論Ⅱ	44	28	63.6	4.11	内容については全体的に高評価であったといえる。自由記述回答も良かったという意見だけで、改善点の希望意見はなかった。すべてオンライン授業であったため、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」という評価は他の質問に比べて低いが、全体を通して満足度も高く、学生にとっていい授業ができたと思う。	今後もオンライン・対面授業どちらであっても、学部として必要な生物化学の講義に加え、何か有益になる情報の提供を心がけて行う。	
48	20345319	食品分析学	39	23	59	4.10	従来とは異なり、対面、web混合であったため、学生には混乱が生じた懸念がある。	対面授業を基本に授業方針を立てる。	なし。
49	20345321	食品製造工学	44	25	56.8	4.16	ほとんどの項目において、平均程度で評価であったことから、満足のいく講義だったと考えられる。	遠隔講義でおこなう場合は今回とほぼ同様に行う予定である。	
50	20345322	微生物工学	85	69	81.2	3.87	授業の評価が全体的に中の下といったところである。まず、授業の内容が、数学的な要素が多く、リモートでの講義には非常に難儀した。パソコンのパットにペンで数式など書き込みながら説明する形式をとったが、自身としても初の試みでこの形式をきちんと使いこなすのに大変難儀し、システムが上手く使えなかったり、特に、パットでは細かい数式を書くことが大変難しく、そのために授業のクオリティーの確保ができなかったと言える。	来年も、リモート講義を余儀なくされることもありかと思うが、システムの使用については慣れていくものと思う。そして、リモートでの講義方法もノウハウが分かってくると思うので、学生の満足度もそれにしたい上がるものと思う。農学部で数学的な講義をしているので、中々、全員が高い学習意欲で高い満足度を示すことは困難かと思われるが、授業内容の中に、農学部の学生でも興味を持って臨めるような要素を部分的に含めることで、より多くの学生が興味を持ちながら満足した学習ができるように工夫をしたいと思う。	
51	20345335	栄養生理学	43	28	65.1	4.09			
52	20345336	食糧製造化学	84	53	63.1	4.01	本講義は実生活に密着した内容であることから、興味をもって受講してくれた学生が多かったことが本アンケートから確認できた。学生の理解度を毎回のアンケートにより計りながら、講義資料を準備・修正し、毎回の授業で前回の復習と明確な授業テーマ・目標を明確化した点がある程度評価されたものと考えている。ただし、学生との双方向のやりとり問題があり、今後はこの点を改善していきたい。	基本的な授業のあり方はこれで良いかと思われるが、できるだけ双方向での意思疎通が円滑に行うことができるような工夫を心がける。より積極的な学びにつながるような雰囲気づくりにも配慮したい。また、Moodleを活用した講義資料の準備も内容の理解を深めるためにさらに充実させたい。	
53	20345337	食品製造機械学	39	24	61.5	4.09	ほとんどの項目において平均とほぼ同等の評価だったため、満足のいく講義だったと思われる。	次回も対面で行う場合はほぼ同様の講義を行う予定である。	

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
54	20345338	食品保蔵学	49	27	55.1	4.33	今年、コロナウイルスの影響もあり、五年前から実施している「事前に簡単な調査を行わせて上で受講させる」という取り組みを十分に実施できなかったが、講義を通して出された質問を受講生に回答させることで双方向性（評価ポイント4.3）を感じ取ってもらえたようである。ただし、教員の説明がわかりやすかったという評価は4.2であったこと、さらに、この授業内容についてより深く学びたいかという点も4.1であり、まだ改善の余地があると考え。基本的には、本講義の「食品の保蔵や加工に関する基礎知識を認識あるいは習得する」という意義については理解して取り組んでもらえたと考えられる。	本講義は食品企業に就職するためには必須の講義であり、また、実生活にも役立つ内容である。企業で行われている最新技術等の情報収集に努め、基礎科目によって得た知識と応用分野である食品保蔵に係わる知識・技術との結びつきについて詳細に解説することで、学生にはより積極的に講義に臨みたいと思わせるようにしたい。学生にとっては受け身の内容が多いので、来年度は、学生自らが、発見し、自分の考えを発表できる様な内容を少し取り入れたと考えている。	
55	20346206	森林生態学	41	13	31.7	4.36	前半が対面、後半がリモートの講義となったが、Moodleを利用した毎回のレポートやTeams機能で双方向性を維持したため、比較的高い評価を得られた。	講義資料がよく整備できたので、来年度はどのような形式でも対応できるようになった。	リモート授業に適した学生と対面授業に適した学生がいることが分かった。
56	20346207	木質科学	37	15	40.5	3.33			
57	20346208	材料物理化学	38	14	36.8	3.54	講義中心であり、「学生と教員とのやりとりには双方向性」については検討余地がありと考える。それ以外はおおむね良好と考える。	従来通りの実施の予定である（対面で可能なら対面で）	特になし
58	20346209	環境地学	42	11	26.2	4.06	「授業の難易度は適切であったか」、「学生と教員とのやりとりに双方向性があった」、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」の3項目のスコアは4.0未満であった一方、残りの7項目のスコアは4.0以上であった。このことから学生は概ね「環境地学」の講義に満足したと評価できる。しかしながら、「授業の難易度は適切であったか」、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」の2項目については、「そう思わない」と回答した学生がいたことから、次年度以降、講義を工夫する必要があると評価される。	「環境地学」は主に学部2年生を対象としたものであるため、講義の内容をもう少し分かり易く説明するよう工夫する。2021年度は対面講義を予定しているため、学生とのやりとりを増やすよう工夫する。	
59	20346210	木質構造力学	33	13	39.4	4.12	科目平均より、概ね高評価である。全体としてはまずまずと評価している。評価の低いものとして、目標の明示があり、数少ない物理系の授業として、授業の狙い等をもう少し工夫する必要があると考える。	授業の目標を明示する。	
60	20346211	森林環境経営学	41	14	34.1	4.19	授業評価の回収が34.1%と低かった。学修デザインおよび学修マネジメントは、4.4と高かったが、そのことが主体的な学修や意欲に繋がっていない学生が存在する。	自ら考え、調べる機会、学生相互の議論をする場を設けるなど、主体的な学修に結びつくような工夫を行いたい。	特になし
61	20346301	森林資源環境モニタリング論	29	11	37.9	4.09	全体的な傾向として科目群平均値と比べてほぼ同程度か若干上回る程度の評価だった。ただし、科目群平均値と比べて主体的学修は低かった。	主体的学修を促すべく、参考図書などを紹介する時間を増やす。	
62	20346322	森林砂防測量学	26	9	34.6	3.84	「学生と教員とのやりとりに双方向性があった」、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」、「この授業内容についてより深く学びたいか」の3項目について、「全く思わない」と回答した学生が1名ずついた。特に、主体的学修と学習意欲については、全体的に評価が高くなかった。その他については概ね科目群平均と同じであった。	学生が主体的学修と学習意欲を持てるよう講義内容を工夫していく。	

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
63	20346323	森林資源・山村経済学	25	6	24	3.82	学生と教員とのやりとりの双方向性については科目群平均を上回っているものの、その他の項目は科目群平均と同じか下回っていた。同じ内容の授業を提供したものの、昨年度（2019年度）の授業アンケートでは総合評価（共10）が4.8で、全ての項目で科目群平均を上回っており、昨年度と今年度では学生の評価が大きく異なった。また昨年度は回収率が77.3%であったのに対し、今年度は回収率が24%と著しく低かった。例年は対面式で実施しているが、今年度はオンライン式で実施しており、その変化が授業評価にも影響を与えている可能性もある。	今年度は新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン式で実施した。「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」という項目が高かったのは、事前に録画したものを視聴してもらう形式ではなくライブ形式で実施したことによるものと考えられる。一方で、その他の項目については科目群平均を下回っており、アンケート回収率も低かったことから、オンライン式で実施する場合は更に丁寧な説明や学生ケアが必要であることが示唆される。今回の結果を今後オンラインで授業をする際に活かしていきたい。	特になし
64	20346324	樹木学	29	11	37.9	4.09	評価は概ね4以上であり、特別大きな問題があるとは考えない。学生と教員との双方向性について3.8と評価がやや低かったのは講義の一部をオンラインで行ったことに起因するかもしれない。主体的学習(3.7)と学習意欲(3.8)のやや低い評価は解釈が難しい。教員の工夫や努力で改善できる部分とそうでない部分があると考えられる。	オンラインでの講義を実施する場合は、まず学生と教員との間での決め事を明確にする必要があるだろう。	
65	20346333	森林機能制御学演習	16	4	25	3.96	概ね科目群平均と同じであった。しかしながら、「シラバスの学習目標は明確だった」、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」の2項目は科目群平均より0.4ポイントほど低かった。	学生に分かり易いようにシラバスを工夫したり、学生の主体的学修の意欲を向上させるよう工夫する。	
66	20347201	動物生産科学概論	38	21	55.3	3.91	アンケート回収率は55.3%であり、学部後期科目の平均値59.1%を下回った。科目群平均値より低い評価を受けた項目は共-51, 53, 60などであり、学習目標や学ぶべき重要な目標を明確に示せていなかったと分析された他、教員と学生の双方性も改善すべき点であることがわかった。多数の教員が担当するオムニバス形式の講義をリモート式で実施したことに派生する結果であると考えられる。	次年度もオムニバス形式での実施を予定しているため、個々の担当回の学習目標などをより明確化するように担当教員に依頼する他、学生との双方向性の改善策を講義に盛り込むように伝える予定である。	特になし
67	20347204	無脊椎動物学	39	21	53.8	4.31	全項目で科目群平均を上回っており、全般的に高評価を受けることができた。特に共-67、68、81では4.5を上回っていた。一方で共-3は3点台に止まっており、改善を検討する必要がある。	講義内容に双方向性や主体的学習の機会を取り入れることで上記の評価向上を試みる。具体的には、学生への質問やディスカッション時間、調べ物課題などを折り込む。	
68	20347205	魚類学	37	21	56.8	3.87			
69	20347206	動物学	40	21	52.5	4.08	満足度4.2であり、学生の評価は良好	主体的学習3.7、学習意欲3.8 であるので、自主的学習が向上するような工夫が必要か？	
70	20347207	飼料学	44	25	56.8	4.19	学修デザインは4.0-4.3、マネジメント3.8、インストラクション4.1-4.4、授業者の特徴4.4、主体的学修3.7、学修意欲3.8、満足度4.2であった。今年度は、コロナ禍であったため、E-learning等を採用したにもかかわらず、比較的高い評価が得られたと考えている。	次年度より、カリキュラム変更につき、本講義は解体される。新たに始まる飼料学I、飼料学II、水圏生態系の保全と再生、の中で、評価結果を参考としたい。	特になし。

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
71	20347208	動物生理学	39	21	53.8	3.89	履修登録者39名中、21名が回答した（53.8%）。例年の対面授業では授業時間中にアンケート回答時間を設けるため80～90%の回答率である。しかし今回は冬学期が遠隔授業であり、Moodleにアンケート協力依頼を掲載したのみであったため、回答率が大きく下がったと思われる。このためアンケート結果は全体の評価を十分に反映しないものの、回答した学生の中ではおおむね4.0～4.2の項目が多かった。しかし「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」（3.4）、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」（3.5）、「この授業内容についてより深く学びたいか」（3.6）の3項目は低いスコアであった。これらの項目は農学部全体の平均でも格段に低かったことから、遠隔授業にともなう双方向性の確保や勉学意欲の刺激向上の難しさを反映していると考えられる。	遠隔授業ではアンケート回収率の低さが大きな課題である。Moodle掲示ではなくライブ配信の授業中に記入時間を設けることで、わずかながらでも回収率の向上が期待される。双方向性については、Moodleの質疑応答欄の活用がほとんどなく、冬学期に急遽対面から遠隔授業に切り替えたため、遠隔授業でのレポート課題を準備する時間がなかったことが反省点である。対面授業・遠隔授業にかかわらず、毎回の授業で感想や疑問点を提出させ、次回の授業でそれらに回答することで、双方向性や学ぶ意欲の向上を図りたい。	
72	20347209	水族生理生態学	43	22	51.2	4.20	主体的学習の項目が3.5と平均よりやや低めであったが、それ以外の項目は平均、もしくは平均を上回っていた。特に、難易度の設定（共211）、双方向性（共60）、説明のわかりやすさ（共67）、学修意欲（共221）に関する項目は平均値を0.2ポイント以上、上回る値を示していた。	高い学修意欲が主体的学修に結びついていない点については、レポート課題を工夫するなどして対応したいと考える。	回収率が低いと、web環境下でも時間を長めに確保し、提出を促すようにしたい。
73	20347210	動物組織学	52	24	46.2	3.74	2年生後期科目は、対面形式で実施するようにとの指示があり、15回を全てを対面で実施した。しかし、この通知を理解していない学生もいたようで、「どうしてオンラインで実施しないのか」とのアンケート回答が見受けられた。また、コロナ感染症を考慮し、単方向の授業形態に努めたため、双方向授業への結果（点数）が低かった。	来年度は、可能な限り双方向性授業を実施したいし、コロナ感染症がおさまることを願っている。	今年度は多くの制約の中で授業を実施したため、アンケート結果を来年度以降に生かすことは、困難との印象を持ったのは、私だけだろうか？
74	20347307	草地学	13	2	15.4	3.15	リモートの授業をほぼPowerPointのファイルを配布する形式としたため、学生との意思疎通に欠け非常に低い満足度となってしまった。	対面、リモートに関わらず、学生との両方向の意思疎通がはかれる授業とする。	
75	20347308	畜産食品化学工学	16	6	37.5	4.30	回収率が37.5%と低いので、授業評価を分析するのは適当ではない。得られた評価値だけをみれば、共-221（難易度）を除く全ての項目で科目群平均値を大きく上回る評価であった。特に、授業準備・教員の熱意・学習意欲の触発・興味の触発・総合的満足度は高い評点を得た。	今回はリモート式で実施し、例年（対面式）と同等あるいは以上の評価を得たと考えるならば、対面式とのハイブッド型の試行も考える価値がある。COVID-19の感染状況によって柔軟に対応するよていである。	特になし
76	20347309	生物統計解析	26	13	50	4.29	4名で分担したが、いずれの評価項目も科目群平均以上であり、平均以上の授業水準を保てたと思われる。特に共-3"主体的学修"、共-221"学修意欲"は高く学生のやる気を引き出せたと考えている。	共51、共53は平均だったのでシラバスを改善する必要がある。共81も平均だったので教員のプレゼンも考慮したい。	
77	20347322	水族生化学	21	11	52.4	4.02	双方向性に関する評価が、多項目に比べて低かった。これは全ての授業をZoomあるいはe-learningで行い、質疑の時間が少なかったためと考えられる。	対面での授業が可能となれば、Q&Aセッションを増やして双方向性を向上させたい。	
78	20347324	浮遊生物学	26	24	92.3	4.03	「シラバスの学習目標は明確だった」が特に低かったのが反省材料である。今回、遠隔システム（ズーム）を用い、パワーポイント中心の講義となった。コロナ以前は板書中心であったため、学生の理解度の把握が比較的手探りであった部分が影響したようだ。	今回は講義資料の質、特に毎回の目標をより明確にして臨みたい。	
79	20347326	水産増殖学	17	7	41.2	4.09			

令和2年度農学部授業評価まとめ（後期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
80	20347328	海洋資源化学	23	19	82.6	4.29	全体的に平均を上回っていたが、授業の難易度に関する項目が平均を少し下回っていた。オンラインで実施したために専門的な内容に関する説明が不十分になった可能性がある。	学部3年生の後期の授業ということもあり、専門的な内容が増えてくるので、受講生の理解度を把握しながら分かりやすく説明するようにしたい。	
81	20349004	Introduction to Bioresource and Bioenvironmental Sciences 1	21	9	42.9	4.27	21名の受講生中9名が回答しており、回答率が42.9%で全学の平均より低い。海外にいる学生や、科目評価が初めての1年生（11名）が含まれていたため、回答率が低かったと考えられる。回答の内容を見るを「共-67. インストラクション（全学平均：4.1点、評価：3.9点）」以外、全ての項目で高く評価されており、学生の満足度は高かったことが示唆される。	「共-67. インストラクション（全学平均：4.1点、評価：3.9点）」については、教員間のコミュニケーションとMoodleやメールなどを活動して学生への綿密なインストラクションを心かけ、改善を図るつもりである。	特になし。新入生向けの授業評価に関する案内があったのかが気になります。
82	20349017	Elementary Statistics	14	4	28.6	4.58	Elementary Statistics科目の登録数は14名で回収数は4名となり、回収率は28.6%と低かった。4名であるため、あまり統計的なことは言えないが、全ての項目において、科目群平均よりも高い評価であった。また、この項目では、学修デザイン「シラバスの学習目標は明確だった」「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」学修マネジメント「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」授業者の特徴「教員は、授業に対して熱意を持っていた」は評価が4.8と高かった。一方で、インストラクション「教員の説明はわかりやすかった」にどちらでもないが1名おり、また、主体的学修「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」にどちらでもないが1名いて、4.3の評価となっていた。	回収率が低かったことの原因として、14名が学部2年生で全員海外からの初めてのオンライン講義履修となり、アンケートについてあまり理解していなかったように思う。最後の講義でリマインドをするなど改善に努めたい。また、今後より分かりやすい講義説明に努め、主体的学修を促すコンテンツを含めて講義を行いたいと考える。	

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。（授業評価表の分析の提出がなかったもの除く。）